

えほんのおへや通信



2012年8月1日(水)発行 サンガこども園 <http://sanga.iinaa.net/index.html>

猛暑、夕立、セミの鳴き声は夏の風物詩です。公園ではセミのヌケガラが見られ、本格的な夏の到来です。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」8月号の紹介。

こどものとも 0.1.2

10ヶ月～2歳向き

「よ・だ・れ」

小風さち文 / 及川賢治絵

「あーちゃんがわらうとよだれがでます。たあ たあ たあ」。赤ちゃんは笑ったり怒ったり泣いたり、表情がくるくる変わりますが、そのたびに出るのがよだれ。赤ちゃんの表情がたまらなくかわいい絵本です。



こどものとも 年少版

2～4歳向き

「かきごおり」

樺山祐和作

冷凍庫から氷を取り出して、かきごおりをつくろう！ シャリッシャリッシャリッ——けずった氷がどんどん高くなるよ。たつぷりとシロップをかけたら、ほら、かきごおりのできあがり。



こどものとも 年中向き

4～5歳向き

「おいしいじいさん」

尾崎玄一郎作 / 尾崎由紀奈作

ある家のおいしれに、魚の姿をしたおいしいじいさんが住んでいます。おいしいじいさんは、人間が眠る夜になると、おいしれの中で起きだし、おでこのライトをつけて遊びはじめます。



こどものとも

5～6歳向き

「おおばっちゃんちに またきてたんせ」

秋山とも子作

おおばっちゃんは、東北・秋田に暮らすひいおばあちゃん。いつも畑や田んぼの仕事をやりながら、山の暮らしを楽しんでいます。お盆になると、孫やひ孫たちが帰ってきて、おおばっちゃんの家は大にぎわいです。



ちいさなかがくのとも

3～4～5歳向き

「ゆうぐれのさんぽ」

高柳芳恵文 / 夏目義一絵

西の空が少しずつ赤く染まってく夕暮れどき。ヒグラシが鳴きはじめると、田んぼの上空にはツバメの群れがやってきます。それに続いて姿をあらわすのは軽やかに飛ぶトンボたち。やがてトンボの姿も消え、田んぼはしんと静まりかえります。



他にこんな絵本も購入しました。

「はなびのはなし」

作・絵： たかとうしょうはち

4歳から

花火ってどうやって作るのかな？ 花火はどうやって打ち上げるの？ 空に上がった花火はどこから見ても同じなのはどうして？ 花火のすべての疑問に答える花火のお話です。



福音館書店

※年齢は目安です

【雑感】

魚は骨と肉との間にうまみがあるのは魚好きの方なら誰でもご存じです。「骨なし魚」は、かつて病院や高齢者施設向けに発売されたのが始まりで、弁当用など消費者向けにも浸透してきました。骨がのどに刺さる心配がなく、「食べやすい」のが人気なのだそう。

魚は骨があって当たり前と育った世代には魚食の促進に一役買っているのか、魚ははしで骨を取って食べるのが常識という日本の食文化の危機なのか、判断は難しいところです。

